

転職して、里親農家で技術を習得! ～トマト+キュウリ+軟弱野菜の周年栽培に取り組んで～

施設園芸



はしもと ひろみ
橋本 万己さん

就農年月：平成 23 年 8 月（就農時 49 歳）
就農場所：鯖江市下野田町
出身地：鯖江市（非農家出身）

- ・ 農業経験がなかったため、農業短期研修（5 日間）を受講
- ・ その後、里親農家で、施設園芸の技術を 1 年間研修し、就農

地域の方と
栽培管理を確認

経営内容

品 目：トマト(8a)、キュウリ(8a)、
軟弱野菜(コマツナ等)(5a)
販売先：JA 出荷、直売
労働力：本人、母

ハウスの周年栽培

3～7月

トマト

8～11月

キュウリ

12～2月

軟弱野菜

農業を始めた

きっかけは？(就農の動機)

前職(自営業)の収入が減少し、先の見通しが立たないので転職を考えました。

小さい頃から植物を育てることが好きだったので、農業を選びました。

農業は、無限の可能性を秘めているところが魅力でした。

また、定年がなく、一生続けられるところも良いと思いました。



栽培するキュウリ



農業を始めるには十分な資金が必要でした。また、就農後3年は利益が少ないので、生活資金の準備も大切です。就農を決める前に家族の理解が得られ、いろんな面で助かっています。農業経営者として、生産販売する農産物に責任を持ち、3年後、5年後の目標を具体的に決め、コスト意識を持って取り組んでいく予定です。

就農までの道のり・苦労した点

1 栽培技術の習得

農業は未経験だったので、里親農家で基本的な栽培方法を習得しました。技術力を高めるため、就農前に小型ハウスで実践研修を行いました。

圃場（土壌）条件が異なると作物の生育も異なるので、里親農家と同じ管理をしても、うまくいかない場合があります。圃場に合った栽培技術を確立するには経験を重ねることが必要だと実感しました。



就農相談会で取り組みを説明中

2 農地の確保や施設などの整備

地元の農家から水田を借りてハウスを建てましたが、水田から野菜作りに適した農地への改良（排水対策、土づくり）に労力がかかりました。

また、ハウス導入には多額の費用がかかるので、補助事業を活用した計画的な整備が重要です。

3 家族の理解など

家族にも、収穫や出荷などの手伝いをしてもらっています。

自然災害でハウスが倒壊する経験をしました。災害に対する備えも必要だと実感しました。

経営開始時の耕作面積が小さいと出荷量が少なく、収益も上がりにくいので、早い段階で規模拡大していく予定です。